

## 第1回（仮称）新三宮図書館整備検討会 議事録

日 時：平成30年7月23日（月） 12時30分～14時30分

場 所：神戸市立中央図書館2号館4階 研究室(1)(2)

出席者：（委 員）中井会長、小林委員、佐藤委員

（事務局）中央図書館長、総務課長、総務課担当課長、総務課担当係長3名  
都心三宮再整備課担当課長、担当係長

傍聴者：5名

- 1 開会、挨拶
- 2 委員紹介
- 3 協議

### （1）三宮図書館の現状と課題

事務局より配付資料に基づく説明

### （2）（仮称）新三宮図書館の整備について

会長：私たちが調査している地方都市の公共図書館では基本的には土・日が利用者としては一番多い。いま配付資料の説明を聞くと三宮図書館はビジネスマンが多いということだが、曜日別の利用者数というのはどのような割合になるのか？三宮図書館では、他の図書館とは逆転して平日の方が多いのか？

事務局：手元に詳細な資料がないが、通常の図書館であれば利用の山が火曜日から減少していき金曜日で底を打ち、土・日に利用が増えるのだが、三宮図書館では木曜・金曜あたりの夕方、特に金曜日の夕方は休日前に予約の本を受取って帰る方で混雑する。一方、土・日も買物のついでにお越しになり、朝と夕方に多いということになるので、半々ぐらいになるかと思う。

会長：いま話を聞くと、都心部に近いのであまり家族連れのような人たちは来ないと思っていたがそうでもない。私たちが調査対象としている地方都市の普通の図書館のように土・日にも家族連れで借りに来られる方がるのであれば、平日に普通の図書館ではあまり来なかったであろう、ビジネスマンの層が大変多く来られている。その人たちがプラスαの利用者層として平日に多いというのが三宮図書館の特徴と位置づけて考えられる。各図書館にはそれぞれの地域差があると思うので、基本的にはそれを活かしていくことになるが、その地域差をもう少し読み解くためにも曜日別の利用者の変動を教えていただけたらと思う。

委員：資料4では、日曜日とか平日を混ぜて調査しているが、曜日と年齢のクロス集計なども生のデータがあるなら出せるということか？

会長：3日間のアンケート調査をして一番多かった日はいつなのか？また、平日と土・日で利用者層が違うのかあるいは同じなのか、人数の割合なども知りたいと考えている。

委員：この調査では、10代未満の子供は対象としていないのか？

事務局：元々、10代未満の子供はそれほど利用はない。

委員：10代未満の子供は、土・日でも来ないのか？

委員：おはなし会は、その人たちをターゲットにしているから来ている。

委員：おはなし会には、もちろんそれを目的に来ているのではないのか？

委員：おはなし会があるからというのではなくても来ていると思う。親子連れ、買物のついでなどに来ている。お母さんがデパートに行っている間にお父さんと来ていたりということもある。

細かいデータは分らないが住んでいる市民の感覚としては、中央図書館は市の全体を見渡しての存在である。地域図書館はその区の住民のための地域図書館なのだが、三宮図書館だけは少し別で、いろんな人が集まって来ていて、中央図書館ではないが中央図書館のように全市民のためのもののような感じである。

会長：アンケートの住所をみれば各方面から来られているが、交通手段はどうか？

事務局：何年前に市民満足度調査で交通手段まで聞いたことがある。三宮の場合はバスも、電車も地下鉄もある。

委員：自家用車で来られる方は無いか？

事務局：自家用車で来られる方もあるが、やはり駐車場代がかかるのではないか。

委員：図書館には駐車場は無いので、買物で来てどこかに停めているということなのか？

会長：それで、買物ついでに来館が多いのだろう。商業施設などの駐車場に停めている可能性が高いと思われる。

委員：図書館でボランティアをされている方は、他の区ではその図書館の周辺に住んでいる方が多いが、三宮図書館のボランティアの場合は、4グループあるが中央区民はほとんどいない。

会長：いろんなところからボランティア活動に来られているということか？

委員：そういったことでも、三宮図書館は地域図書館といえどもちょっと特異だと感じる。

委員：地域図書館というより「駅前館」ということではないか？

会長、委員：そうだと思う。

会長：中央図書館ではないが、交通至便で人がよく来られるところにあり、いろんな方々がよく使っている図書館といえる。

委員：ビジネス街的というのか仕事帰りに立ち寄るのは別にして、ビジネスに活用されているらしいという傾向はあるのか？

事務局：現在は 606 m<sup>2</sup>の小さな図書館なので、資料的には中央図書館の方がビジネス支援に役立つ資料が多くあり、三宮図書館で直接的なビジネスのレファレンスが多いかというところでもないと思う。

どちらかというと、働いている人、ビジネスパーソンへの支援という色合いが濃くなっていて、館内でデータベースを利用する、仕事に役立つ本を借りて帰られるなどの形になっているかと思う。

委員：資料そのものというより、職場の近くにあるから使いやすいということなのか？

会長：千葉県の浦安市では、取り扱う本の多さでは駅前に作った配本センターが本館を上回ってしまったと聞く。クリーニング店のような小さなところでも扱う本が多い。三宮図書館もそうになってしまっているといえる。レファレンスではなく借りたい本

を受取る場所として使われている。立地、利便性が良く、平日の開館時間も長いということで、ビジネスマンの方々は予約本受取りなどの利用が多い。先ほど木曜、金曜が多いと聞いたが、土・日には来られないので、仕事に来ているときにそのついでに借りて帰るという利用が増えてしまっている。

事務局：確かにその通りで、予約の受取りに便利に使っていただいているのは大きいですが、アンケートの結果にもあるように読みたい本を探して借りるというのも一定数ある。話を戻すが、数年前の交通手段調査で三宮図書館は、30%が徒歩、自転車が数%、公共交通機関 1.6%、その他 54%とある。

会長：その他は自家用車ではないのか？図書館には自家用車で来ていないがその周辺には停めてそこから歩いてきているということだと思う。やはり地方都市、愛知県の名古屋市もそうだが、特に土・日は 7 割ぐらいが自家用車で来られる。三宮ではどうだろうか？

事務局：この数年前の調査は 2 月の祝日に行っている。

委員：普通は市営の駐車場に停めたり、デパートの駐車場に停めたりする。

会長：市営駐車場はだいたいどれくらいの料金か？

事務局：中心部は高く、離れば安くなる。

委員：家族での行動パターンはそうだと思う。でも、三宮の再開発では自家用車で乗り入れないようにすると聞いているがどうか？

事務局：自家用車の都心への流入はさせない方向で、再開発を進めているようだ。

事務局：三宮周辺だと 20 分で 300 円くらいだが、買物をすると割引などのサービスがある。

会長：バリアフリーという考えで、建物の中で段差を無くそうというのは大変大切なことだと思っているが、アクセシビリティということで自宅から図書館へ行くときの近づきやすさということも大切なことだと思っている。都心部に計画する図書館なのでアクセシビリティをどう考えるかということもあるが、公共交通機関で来るように言っても、特に土・日は自家用車で来館されると思う。別にその人たちのために何かしなければならぬということではないが、そういう人々がいるということも想定しておかなければならない。

会長：来館の交通手段のことや曜日別の利用状況については、また資料を元に検討していただけたら良い。

次に資料では利用状況のアンケート調査結果となっているがこのあたりはどうか？

委員：現状では高齢者が多めとなっていて、60～70 代だけで ARG の調査だと 46%である。これは他の神戸市内の図書館と比べたらどうか？

事務局：他の館でもやはり高齢者は多い。全体平均でも年齢層の割合としては高齢者の割合が多くなっている。毎年全館で行う市民満足度調査で見ても 60 代以上の方が半数以上である。

委員：市民満足度調査は何曜日に行っているのか？

事務局：実施する年度によって異なる。平日のときも、土・日のときも、祝日のときもある。

委員：前回の調査で、他の図書館に比べ三宮図書館利用の年齢層はどんなのか？

事務局：前回は木曜日に調査をしているが、特色としては 20 代が他の図書館に比べて少し多い。最も多いのが 60 代で 25.4%、70 代以上で 20.5%である。この辺り数字は他の

地域図書館も同じである。

委員：年齢構成では、三宮図書館の利用は若者が若干多い程度で、他の地域図書館と比べて特色はないということなのか？

事務局：若者が多いと言っても数パーセントなので、母数が多いのか少ないのかで割合の数値が変わる程度だと思う。

委員：特にビジネス街だから、あるいは駅前だからということで利用者層に特色はないか？

事務局：来館者の職業が、会社員、公務員、自営業、アルバイト・パートの勤労者で半数以上であることが他の図書館と大きく異なる。

会長：私たちが他の都市で調査するときには来館者全員に声かけして、断られた人も数える。開館から閉館まで来館者全員に声かけすると、高齢者の方が見た目以上に少なく、10%ぐらいにしかならない。

意外と多いのが20代から40代の高齢者と言われている人までの男性で、その方たちは基本的に本を借りないので館内で雑誌などを読んでいる。本を借りるのは女性や子供が圧倒的に多く、また学生は席を使うだけで本を借りない。

このように他の都市の状況を考えると、この三宮図書館の調査ではどのような方たちをターゲットにして声をかけられたかということが気になる。やはり、こういう調査に答えてくれるのは時間的に余裕のある高齢者の方が多い。そういった意味で偏りがあるのではないだろうか。

委員：普通は10%程度となるようなところが、半数になるというほどの偏りはないのでは。

会長：感覚的ではあるが、実際の利用者の年齢層で高齢者が約半数ということは全くないと思っている。

委員：高齢者を一人、二人と数えたら少ないかも知れないが、滞在時間が長いので多くおられるように感じる。

会長：ほぼ毎日来られている方もいると思う。

委員：高齢者に関しては、新しい図書館になってもならなくても、来館されるかも知れない。たぶん他の区の高齢者が三宮図書館に来られるということもあまりないと思う。三宮図書館は以前からビジネス支援などに力を入れている図書館なので、若い人や働いている人は新しくできる図書館へそういったことを期待していると思う。今は面積も狭いので、夕方はあまり使われない児童室を使ってビジネス関係の講演会をしている。人が集まっているのに、何かしようと思っても場所がないというのが現状だと思う。せっかく人が集まる場所なのにもったいないと思う。

また、学生が来ないというのは、そもそも三宮図書館には勉強するスペースがない。

委員：20代というのは何をしても絶対来ない。何をやっても増えようがない。しかし、10代は図書館を使う年代であると思う。

会長：大きな新しい図書館ができると一番敏感なのはその年代である。勉強目的が主流になってしまうので図書館の主たる利用者にはならないとは思いますが、次の世代を担うという意味でも、図書館に来てその環境を活かしてもらって、自分たちが30代、40代になったときに家族連れで図書館に戻ってきてくれたら良いと思う。彼らに「自習をするために来るな」ということはあまりしたくない。社会人と学生の間でよくトラブルがあるので、社会人専用の席も確保して勉強では入らないようにすれば良い。

今までの話を聞くと、いろんなところから来られる場所になっているので、いろいろな世代の人たちに来てほしいと思う。それぞれの世代に対応したサービスで彼らの受入れ態勢を作ってあげたいと思う。

委員：大学生のことだが、おはなし会をやっていたら「保育の授業でおはなし会をしなければいけないのだが、どんな本を選んだらいいのか？どんな風にしたらいいのか？」など質問にくる。図書館員や私たちが知っている限りの話をするが、他の地域図書館では学生さんが訪ねてくるということはあまり考えられない。それは三宮図書館だからと思う。そのような情報を求めている学生も三宮図書館には来ている。

委員：他の図書館より学生なども来館しやすいということか？

委員：通学等の通過地点なのだろう。先ほども言ったが三宮図書館は地域図書館らしくない。「図書館に行けば何か情報があるのではないか？」と思って来てくれる。

会長：「行きやすさ」があるということだ。それは非常に強みだと思う。

この検討会では、三宮図書館の整備基本計画を作るためにアドバイスをすることを考えれば良いと思うが、神戸市全体でどういうサービスを提供するのかという点を、今あるネットワークなどをフルに活用して、サポートしていかなければならないと思う。三宮図書館だけが頑張る、または中央図書館だけが頑張るというのはいけない。全体の中で三宮図書館がどんな役割を果たすべきかという位置づけが、今回の基本計画の中で一番大事なことだと思う。

神戸市の図書館の中で非常に行きやすくて、図書館利用のきっかけに三宮図書館がなるというのであれば、そういった図書館利用の種を他の地域図書館に戻していかなければならない。そういうハブのような拠点に三宮図書館がなれるのかもしれないので、神戸市立図書館全体の活動や各区の地域図書館の活動の紹介なども三宮図書館にあった方がよいのかもしれない。

まさに入口、玄関口というのであれば、観光客など外の人ばかりに目がいくが、市民の図書館利用のきっかけにもなる情報ステーションとしてのサービスが大事であると位置づけてほしい。

委員：アンケートにも観光客のために何かの紹介をとあるが、観光で行ったところの図書館に行く人はいるのだろうか？観光に行ってその土地の図書館を見学するというのは、何十人に一人の図書館が好きな人ではないかと思う。

委員：普通の人なら、観光に行ってもその図書館には行かない。

特殊な図書館、著名になっていて図書館らしくないなど、そこに行きたくなる要素が有り、そういう機能を果たそうとしているところもあるかと思う。

具体的な例として何が出せるかということ、CCCの図書館などは、観光客が来ないような地域に存在していても、地元の名産品などを紹介しているところもある。

会長：あまり大きな図書館でそのような機能を持っているところはないが、小さな図書館としては、長野県の小布施や群馬県の草津である。草津は小さなバスターミナルの上でできたところだが、温泉資料館の跡に図書館が移転したので、バスから降りてひとつ上の階に上がったならそこに図書館がある。観光案内所もあるが、どこの温泉に行けばいいのか図書館でも案内している。

神戸市のような大きな観光地ではもう一歩踏み込んだ、神戸の歴史などをもう少し深めたい人たちへのサポートがあれば良いと思う。それは観光客だけではなく地

域の人たちも同様で、神戸の歴史や文化をサポートすると考えれば良い。

委員：観光客向けなどと公表することもないと思う。神戸市民でも欲しくなるような情報が確実にあり案内できるようになっているのであれば、例えば観光の情報が欲しくて図書館に来て役にも立つというものになる。

会長：また、そういう目的で来られても三宮図書館になれば、次にどこか有るところを紹介すれば良い。それは図書館が得意のレファレンスなので、資料や情報の要求を受ければ、観光案内所があればそこを紹介すれば良い。

そのようなサービスまでやっている、図書館職員としては仕事が大変になるのだが、これからはそのようなサービスをせざるを得ないのではないのか。

委員：図書館員が観光案内をやるのではなくて、観光ボランティアをやりたい人が学ぶための資料を図書館がバックアップして、その人が勉強して観光案内をすれば良い訳だから、その学習の場を作れば良い。

会長：自由意見欄でさまざまな要望が出ているが、要望があるから、ないからで方針を決めるものではない。大学図書館で調査したときに分ったが、パソコン環境があまり整っていないところで、パソコンの台数を増やして欲しいかと聞いても全く要求があがらない。ノートパソコンの貸し出しをしていて、またデスクトップパソコンもたくさんあるところで調査すると、もっとパソコンを増やして欲しいという要望が出る。今受けているサービスに対して要望があがるので、要望がないからといって無視しても良いわけではない。逆にこの人たちはこのサービスを受けていないのだ。今回はパソコンに関する要望があまりあがって来なかった。インターネットの環境や Wi-Fi などがあがって来なかったが、他にインターネットの環境を持っていて、このようなサービスを受けていないからだと思う。

委員：要望として出てきているものに、読書環境の充実や閲覧席がある。また集中できることなどである。

会長：それは、本当に必要なものがなくて困っていることがあがっているのだろう。新しいものを作るときは、要望の有無に関係なくこれからの方向性、あるいは利用のイメージは少し持っておきたい。そういう意味でもパソコンの環境は必要である。

また、静かな環境と賑わいも大事で、少し話をしても良いような環境を作るのであれば、逆に静かに本を読めるところも作るべきで、そういうこともしっかりやっていただきたい。

委員：仕事ができる座席というのは、勉強ができる座席とは別のものという意味なのか？ミーティングなどを行うことができるスペースのことか？

委員：席自体は同じものと思うが、明確な役割としてここは仕事をしていても良い場所であり、自習する席ではないと明示しておかないと学生に席を取られるからではないか？

会長：新しい図書館の面積は 1,500 m<sup>2</sup>か？それとも 1,600 m<sup>2</sup>なのか？

事務局：図書館としては東灘図書館程度（1,500 m<sup>2</sup>）は欲しいと思っているが、そうならな  
いかもわからない。

会長：1,500 m<sup>2</sup>であってもそれほど大きくはないと思うが。

事務局：学生の勉強席と、ビジネスマンや一般の人が使う机の付いた閲覧席をどうするかというのを、図書館のボリュームの中で入れるのかどうか議論していかないといけない。

会長：大学図書館のことだが、いまラーニングコモンズという図書館内にグループで勉強しても良いスペースがある。その“わいわいがやがや”しても良いというラーニングコモンズの席を一人で使っている学生が 7 割くらい居る。一般の図書館でも開架スペースにある閲覧席でも一人で勉強している人も 7 割いる。

一人で勉強するとき、キャレル席のように囲まれたところでやりたい人もいれば、結構ざわついている中で落ち着く人もいる。個人でもグループでも使える選択肢のある座席を作り、大事なのは会話を許容する席、禁止する席を分けるということだ。

また、仕事で使えるというのは単に Wi-Fi 環境やキーボードを使えるということだけを言っているのかもしれない。音の問題、すなわちキーボードの打音については気になる人と気にならない人は全然違う。キーボードが使えるところ、使えないところを作ってあげたら利用者が選択するのではないかと思っている

ビジネスで来られているのかということ、ビジネスマンが多いだけで仕事帰りに予約していた本を取りに来ているだけなのか、ちゃんとビジネスやレファレンスに来られているのか分らない。

委員：ビジネスに使っても良さそうな席があれば、いままで来なかった人がやってくると思う。コーヒー店でパソコン開いているよりは、椅子なども座り心地の良い物であれば来られると思う。それが図書館資料を使う層なのかといえばそうではない感じはするのだが。

Wi-Fi 環境があれば良いということではなくて、居心地の良い空間を求めてやってくる。そして、そういう作業をしている人がいるのを求めてやってくる。自分一人ではなくそういう空間の方がやる気が出るから来るといった人が一定数いる。

仮にそういう席を作ったとすると、完全に自習スペースとして用意した席に来るのは違う層が来るのではないか？完全な自習スペースにはある程度集中できる環境を求めて来るので、賑やかになる可能性があるところには来ないと思う。

単純に席数を確保すれば全ての人が満足かということそうではない。席の性格はモザイクのようになる。全ての席を作るスペースがあるのかどうかは別問題だが。

要望にあるものを全部活かそうとすると、ゆとりがあって仕事にも使えて、居心地は良くて潤いとなるような空間でありつつ、家族連れでも来ることができる。そして学生向けのコーナーも充実しているということになる。相当広い面積が必要となるが。

会長：ビルのどのフロアに入るか分らないが、屋外の空間は面積に入らないので、例えば 1,500 m<sup>2</sup>しか面積を取れなくても外に 1,000 m<sup>2</sup>くらいの屋上テラスみたいなものができるのであれば、2,500 m<sup>2</sup>として考えてもいい訳である。余裕、ゆとりができることはとても大事なので、屋外をうまく使うことは作戦として考えたい。

委員：図書館らしくうまくつながる空間と考えられる。

会長：BDS などでセキュリティーがコントロールできるのであれば、貸し出しをしなければ持ち出しできないとは言わずに、そのまま屋外に持って行って使ってもらえたら良いと思う。

会長：愛知県の春日井に 4 階に屋上庭園付きの図書館があるのだが、今日本で一番高いところにある図書館はどこかご存知だろうか？

事務局：東京都豊洲の図書館が駅のすぐそばで 10 階、さいたま市の浦和が 8 階で広い屋上

庭園がある。

会長：駅前配本センターの貸し出しが本館を上回ったときに浦安市では何を考えたかという  
うと、来館してもらうための付加価値を付けなければならないと考えた。やはりそ  
こだと思う。

何か付加価値があることが、そこに行く動機付けとなる。それはサービスなのか  
空間性なのか分らないが共に必要。三宮図書館には、自家用車で駐車料金を払って  
も行きたいと思えるような付加価値を付けてあげたい。

委員：サービスでは専門的なサービス、それが高度になればなるほど、人生でそれが必要  
な場面はそんなに頻繁にはないので、単体では人を呼ぶ付加価値にはなり得ない。  
人を引きつけ入館者の満足度を得るという観点から、空間的などところで付加価値を  
付けるというのはあるのかもしれない。

会長：例えば、家庭では絶対買えない椅子があるとか。椅子ひとつとっても自分では買え  
ないがあそこの図書館の椅子は非常に座り心地が良いとか。

来ていただくことの価値というのは雰囲気。雰囲気というのも、アンケートにあ  
った神戸らしいことなども非常に大事で、そこへ行くときにはきちんとした格好で  
行くのだと思えるのが神戸らしさだと思う。

委員：ある程度余所行き空間ということか？

委員：三宮の土地柄はそう。家の近所なら市場に行ったついでに“つっかけ”でも良か  
ったりするが、三宮に“つっかけ”で来る人はあまりいない。

会長：大事なはそのような全体の雰囲気である。図書館だけの話ではなく街全体の雰  
気なのだ。

委員：図書館員に何でも聞けるということも大きな要素。忙しそうにしていたら声もかけ  
辛く何も聞けない。そういう人的な雰囲気もかなり児童サービスの場合にはあるよ  
うな気がする。一般の利用でも声をかけやすい、レファレンスの質問をしやすいと  
いうことになるかもしれない。

会長：三宮図書館は、基本的にはある利用者層に特化することではなく、小さな子供から  
高齢者まで幅広い人たちに来ていただくというのが大きな方向性。また交通至便な  
土地柄もあるので大変行きやすいことを考えると、図書館利用のきっかけになるこ  
とも当然考えられる。

委員：たまたま三宮に買物に来たついでに寄った人が、そのまま三宮図書館の日常的な利  
用者になってくれれば良いと思う。

会長：図書館を使う人にアンケート調査をすると、4割の人が複数の図書館を使っている。  
90年ぐらいに調査したときには2割ぐらいしかいなかったが、現在では1館だけで  
サービスは完結していないということである。一部のよく使う人（図書館のヘビー  
ユーザー）だけがますます多く図書館を使うというのが課題ではないかと思う。  
高校生などカードを持ってない人たちもいると思うが、図書館を利用したことがな  
い人が、地元こんな図書館があるというのが利用するきっかけとなってくれたら  
良い。うまくそういった橋渡しをしてあげたい。

委員：三宮にある図書館が、集客の多い図書館とならないのなら神戸の図書館の発展はな  
い。新しいビルにはショッピングの機能も入るのか？そうであれば独立した建物よ  
り何かのついでに来る人が多くなり、図書館にも入りやすくなる。

会長：買物のついでだという人の主目的は、買物と図書館のどちらなのか？意外と図書館がメインで来ているのではないのか？図書館に行かなければならないので三宮に出て来る。買物のついでに図書館に寄るだろうか？図書館は目的意識の高い施設だと思っているので、買物がついでだと思う。

委員：予約をかけておいて買物のついでにその本を受け取りに行っている。また、返却までに返さなければならないので、やはり買物ついでに図書館に来て返す。

会長：それは、図書館利用のついでに買物だと思う。借りるためと返すために三宮に来ているのではないか。

委員：でも、意識としては買物のついでに図書館に来ることなのでは？やらなければならない予約本の受取りや本の返却の上に、それ以上にやりたい買物がある。まだ意識として図書館に行くことが主目的にならないのが今の現状だ。

会長：他の都市ではアンケート用紙を回収するときに滞在時間を計っている。滞在型など言われているが一番多いのは20分で次が30分。でも4時間以上の人も多くいるので平均すると60分になる。

やはり借りて返したら終わりなので、そういうことをやっている図書館が本を借りて返すだけの場所になってしまう。駐車料金のこともあるが、やはり付加価値を付けるという点では、もう10分、20分、非日常を体感してもらうのも大切なことだと思う。

委員：来館の交通手段のことだが、会社に来ている人は定期で図書館に来ていると思う。

委員：何年前かの調査で、公共交通機関が2%というのはちょっとおかしい。

事務局：資料にはつけていないが、このバスターミナルがあるビルに文化ホールが入ることになっている。計画にはあるが資料にないので要望にも文化ホールとの連携が出てこないが、このことについてはどうか？

委員：文化ホールと図書館というのは最近複合施設でよくある。連携が非常にうまく行っている例というものはあるか？

会長：それほどうまく行っている例はない。実は連携しにくいのだと思う。

委員：どういう動線でつながるかということも難しい

事務局：動線計画には少しご意見をいただきたい。催しがあるとき空き時間に上がってくることも考えられる。

会長：結局ホールは、公演が始まる前はそれぞれの都合の良い時間に来るが、終わったときは500人とか300人が一斉に帰る。ホールの側でもその動線処理はするだろうが何人くらいのホールか？

再事務局：1,500人くらい収容できる大ホールと、少し規模の小さいものの2つが入る予定である。

会長：複数のホールが入るなら、図書館へのアクセスは別で考えたい。

ホールはどこのフロアに入るのか。図書館よりも上に入るのか？

事務局：希望としては、緑化空間を使うので必然的に図書館はホールの上の階である。

会長：あるところで計画に携わっているが、市民の活動で合唱が盛んである。図書館の中に楽譜が置いてある。市民の活動を支えるために少しずつ買って残していつている。市民の活動とつながっていれば図書館の資料に反映できてそれは非常に良いと思う。ホールとの連携も同じ芸術や文化ということではやりたいことではある。

委員：ソフト面では大体できるが、ホールは毎週末にイベントがあるようなので、それと常に連携するというのは図書館が大変になる。ホール側と相談してこれはという公演に関して連携して、施設全体で両方の利用者が通りそうな場所に、ホールではこのような催しをしているという案内をして、図書館ではそれに合わせて特別展示を行う。

会長：その楽譜を少し置くことに関して、神戸市では楽譜を置いている図書館はあるのか？

事務局：中央図書館では全体の所蔵冊数が多いので、リクエストいただいたギターやピアノなどの楽譜があるが積極的に集めてない。

会長：楽譜は市民の活動とリンクしていれば良いが、聴くだけだと CD とか DVD になるのかもしれない。そういったものを記録としてとって残していく、このホールでこういう公演があったということを図書館でもアーカイブとして残していく。

活動を記録していくことがこれからの図書館の役割だと思う。何か調べたいことがあればここに来れば分る。

委員：フルートのコンクールに神戸市は力を入れているのでは？

事務局：フルートの 3 大コンクールのひとつが神戸で行われている。

委員：あれは文化ホールか？

事務局：文化ホール（中ホール）でやっている。

委員：中ホールは移るのか？

事務局：聞いているのは中央図書館の近くの文化ホール全体が移転し、中ホールは 2 号館（本庁）の方へ持っていく。

委員：そこは三宮のテリトリーだ。

事務局：運営も今と同じような形になるかと思う。フルートコンクールはこれからも続けることになると思う。

委員：図書館が主催する少し規模の大きい講演なども、近くのホールが使えることになるのか？

事務局：連携の範囲をどのあたりまでするのかということも含めて、未定である。

委員：図書館主催の講演会をいろいろな会場で行っているのだからと思う。

事務局：会場探しにはいつも苦労している。

事務局：文化ホールは 2 年か 3 年前から予約しないといけないが、図書館の講演会は 2 ヶ月から 3 ヶ月前にならないと講師が決まらない。また何千人も集まるような講演会ではないので難しい。小ホールや中ホールくらいであれば、使い勝手がいいかと思う。

委員：やっぱり近い方が良い。

委員：イベントの要望もあったが、大人数を呼ぶものではなくて比較的少人数のものはどうか？先ほどイベントで児童室を区切ってやっているという話もあったが、できれば閲覧室の一部を区切って小規模なイベントができるスペースは確保したいところだ。

委員：おはなし会は、児童図書コーナーを区切ってやっているのだから落ち着かない。また絵本を借りたい人はおはなし会の間は借りることができず、その人たちも気の毒である。できれば独立した専用の空間がほしい。東灘図書館にはおはなしの部屋というのがある。使っていないときは無駄であるように思うが感じはよい。

委員：使っていない時間もボランティアの人がいて子供とやり取りをしてくれることや、小さな赤ちゃんがいるお母さんが複数組で入って使うなど、いろいろ使い方があると思う。

会長：上から布だけ下がってきて区切るというのもあるらしいが、小さくても良いので、きちんと閉じた空間を作ってあげた方が良いと思う。場の転換というか暗くしたいときもあるだろうから。やはり怖い話をするときはオープンではまずいのではないか。良い空間を作ってあげればお母さんが勝手におはなし会をやっている。そういうことも良いことだと思う。

委員：中央図書館の児童コーナー奥の円いところもよくやっている。

会長：ぜひそういったスペースは作って欲しい。

委員：必須でしょう。

会長：そろそろいい時間になってしまったが、参考資料の1、2はあとで読んでおけば良いか？

事務局：参考資料1はバスターミナルビルの全体の基本計画である。17ページは再整備ビル全体のイメージになっている。文化ホールや商業機能がこのように入るという図があるので、2回目以降はそのような全体像も踏まえた話をしていただければと考えている。

会長：面積が小さいと屋外部分も上手に使いたいということがあるので、どのフロアに入ることになっても良いのだが、できればそのような空間も上手に使える場所に計画していただければと思う。

会長：今日の話聞いていろんな思いもあると思うが...

委員：来館者は幅広く、アクセスしやすく全体のハブになるように...

会長：三宮らしいキーワードも結構出てきた。たいへん良い意見交換ができたと思う。

#### 4 閉会

事務局：長時間ありがとうございました。次回は8月30日（木曜日）12時半から14時半の開催予定です。本日の会議の論点整理については、次回検討会までに事務局から送付する予定ですので、よろしくをお願いします。

《配付資料》

- (資料1) 検討会委員名簿
- (資料2) 検討会開催要綱
- (資料3) 神戸市立図書館の概要
- (資料4) アンケート・ヒアリング調査結果報告書（H28年）
- (資料5) 再整備の事業スケジュール
- (資料6) パブリックコメントにおける図書館機能に係る意見(抜粋)
- (資料7) 「新・三宮図書館基本構想に係るネットアンケート」結果
- (資料8) (仮称) 新三宮図書館のコンセプト等について（素案）

《参考資料》

- (参考資料1) 新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画
- (参考資料2) 「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」及び「神戸三宮<えきまち空間>基本計画」のパブリックコメントにおける図書館機能に係る意見